



## 感謝を力に、未来を拓く

今年は春の訪れが早いように感じられます。グラウンドの桜は、つぼみをふくらませ、今にもほころびそうに枝先を揺らしています。沈丁花のつぼみもはじけ、甘くやわらかな香りが風に乗って漂ってきます。その香りに包まれながら、本日、令和7年度の修了式を迎えました。



卒業式

さて、1年という時間は、大人にとっては「あっという間」と感じられることが多いものです。しかし、子どもたちにとっての1年は、まるで別人になるほどの大きな変化をもたらすかけがえのない時間です。今まで届かなかった高い場所に手が届くようになった身体面での成長。1年前には読むことも書くこともできなかった漢字を使い、自分の思いを文章で表せるようになった学習面での成長。そして、係活動や委員会活動、あるいは家庭でのお手伝いに自分から進んで取り組むようになった行動や心の面での成長。子どもたちは、この1年で本当に多くの、そして、大きな変化を遂げました。

しかし、その成長は誰かに与えられる



5・6年 商品販売会

ものではなく、自分の中から生み出していくものです。うまくいかない日もあったことでしょう。思うようにできず、悔し涙を流した日もあったことでしょう。それでも、あきらめずに一步を踏み出し続けたからこそ、今日の姿があります。

「自分は変わる」・「自分は伸びることができると気づくことは、次の挑戦への大きな自信となり、未来へ向かう力となります。同時に、その変化は決して一人だけで成し遂げたものではないことにも、心を向けてほしいと願っています。温かく見守り、毎朝学校へと送り出してくださったご家族の存在、行事や学習活動において、優しくかかわってくださった地域の皆様の存在、そして、共に学び、共に笑い、時にぶつかり合いながら成長してきた友だちの存在。私たちは、多く



5・6年 探究学習発表会



の方々の存在、「おかげさま」に包まれて生きているのです。

つまり、「おかげさま」が意味するところの「感謝」という言葉は、決して特別な場面だけのものではありません。日々の当たり前の中にこそ、感謝の種はあります。「ありがとう」と心から思える瞬間は、自分を支えてくださっている他者の存在に気づいた証です。そして、その思いはやがて、自分の行動を変えていきます。また、「恩送り」という言葉もあります。受けた恩をその相手に返すのではなく、別の誰かに手渡していくという生き方です。誰かに優しくしてもらった経験は、やがて自分が誰かに優しくする力になります。励まされた経験は、次に誰かを励ます力になります。感謝の心は、自分を変えるだけではなく、周りの人の心をも動かし、学校という小さな社会をより温かいものへと育てていきます。子どもたち一人一人が、この1年の自分の変化を振り返り、その背後にある



多くの支えに思いを馳せることが、次の成長への確かな土台になると信じています。

和田小学校も、この1年、さまざまな変化の中にありました。その歩みを支えてくださったのは、保護者の皆様、地域の皆様の温かいご理解と力強いご協力にほかなりません。心より感謝申し上げます。また、私自身にとっても、本年度は教員生活の集大成となる節目の年となりました。振り返れば、子どもたちの笑顔に支えられ、保護者・地域の皆様に励まされ、同僚に助けられながら歩んできた年月でした。子どもたちに伝えてきた「感謝」や「恩送り」という言葉は、そのまま私自身の歩みそのものであったと、今改めて感じております。



来年度も和田小学校は、「感動体験」を大切にしながら、自ら考え、判断し、行動できる子どもたちの育成を目指して挑戦を続けていきます。そして、子どもたちがそれぞれの「成長の階段」を力強く上り続けられるよう、教職員一同全力で支えていきます。

春は、新たな始まりの季節です。子どもたちには、この1年の成長に誇りを持ち、感謝の心を胸に、新しい一步を踏み出してほしいと思います。子どもたち一人一人の未来が、桜の花のように大きく、美しく花開くことを心より願っています。